

第5回 京丹波町地域福祉計画策定委員会 会議概要

〔日 時〕 平成28年8月29日（月）午後1時30分～午後3時30分

〔場 所〕 京丹波町瑞穂保健福祉センター2階 集団指導室・健康学習室

〔出席者〕 寺尾豊爾町長

委員18名（波瀬孝澄、片山俊明、大西好美、田中強、折竹禮子〔女性の会：竹内会長代理〕、山上幸二、谷山和子、津田勝二、友金一文、梅原好範、隅田光郎、野間之暢、中西和之、今海博文、木上實、野口博之、藤田正則、山崎正則【敬称略】

事務局5名（大西義弘、津田知美、上原美智子、岡本明美、井上祐子、並河直樹、豊嶋浩史）

1 開 会（事務局）

2 委員長あいさつ（波瀬委員長からあいさつ）

3 協議事項

（1）地域福祉計画策定に向けた住民ワークショップまとめについて

○資料「地域福祉計画策定に向けた住民ワークショップまとめ」に基づき、コンサルから説明

委員長：人間関係が非常によいということだが、特にどのような点からそういったことが感じられるのか聞いてみたい。

コンサル：1点は先ほどもご説明した通り、すべてのワークショップで同様の意見が出されているということ。もう1点は、ワークショップ全体をとおして、地区の「悪い点」についての意見の分量が多い中で、人間関係については「良い点」の意見が非常に多く、また人間関係の「悪い点」の意見も、人と人のつながりがあることから生まれる弊害のような意見が多い点からであります。

中西委員：ワークショップの意見や課題の中にはIターンの活用が抜けているのではないかと。Iターンは福祉の視点からも考える必要がある。また、人間関係が良いということだが、その人間関係が良いことを伝えていくことも課題ではないか。お年寄りとお若者とが触れ合える“場”を設け、だれも置き去りにしないまちづくりを進める必要がある。

津田委員：人間関係以外に京丹波町の良い点として意見はあったか。

コンサル：人間関係とともに豊かな自然についての意見も良い所として多く挙げられており、その趣旨については課題のまとめに記載したとおりです。

野間委員：和知地区で「不便さを楽しむ知恵を大切にする」という意見があるが、これは具体的にどのようなことか。また、悪い点の意見の中の「菅井がある」とは何か。

コンサル：1点目について、ワークショップではすべての個別の意見の意図については詳細な掘り下げを行っていないため、具体的な内容は不明である。そのため一般論となりますが、交通インフラが整備・充実された地域では丹波地区で出されたような「個人が電話一本で送迎サービスをする」といったようなサービスの発想は生まれやすいはずで、こういった点が“不便さ

を楽しむ”ことにつながるものと考えます。また、「菅井がある」は「水害がある」の誤表記です。

片山委員：良い意見も悪い意見も表裏一体であり、今、困っていることをどう変えていくかが計画だろうと思う。やはり、人口が少ない、子どもが少ないということがやはり問題である。また和知地区でいえば、空き家の問題があり、仏壇が置いてあることや墓参りのために年に1・2回だけ戻ってくるような家庭もあり、貸し出しができない状況がある。加えて、地区では表面的に交流を推進しているが、高齢者が多く子どもが少ないため、交流になっていない。計画を形だけにしないように、具体的にどこでだれが何をすることを明確にすることを検討していく必要がある。

(2) 地域福祉に関する基礎データから見る課題について

(3) 地域福祉計画策定に向けた課題のまとめについて

○資料「地域福祉に関する基礎データから見る課題」と「地域福祉計画策定に向けた課題のまとめ」に基づき、コンサルから説明

山崎委員：人のつながりという話題が出ていたが、独居の高齢者・身寄りのない方が増えており、こうした方が病気や入院された際にだれがケアをするかという点も含めて、成年後見制度が進んでいる。また、交通の面では例えば綾部市で民間が実施している送迎サービス（市内400円、市外500円）では元気な高齢者がドライバーとして活躍されており、こうした取組を参考に課題解決に活用できるのではないかと。

梅原委員：基礎データから見る課題の1に「各種サービス等の提供の仕組みを検討し」と記載があるが、サービスの提供の中で最も深刻な問題となっているのは事業所の人材育成や入所待機者が多いことであり、この点を盛り込んでいただきたい。また、課題2に介護予防への取組を推進とあるが、これは非常に重要な点である。

全体の課題のまとめの主な課題の中に、中西委員からご指摘のあったIターンについての課題も追加していただきたい。また、この主な課題の中には、京丹波町としてすでにある取組、またこれからさらに力を入れていく必要のある取組が混在しているため、区別して分類を行ってほしい。例えば、「災害時要援護者の情報提供」についての課題は、本町では保健福祉課、消防団、民生委員等が密に連絡をとり、対応をする準備が整っている。

課題解決の糸口にも進めているものがあり、例えば「人材を含めた多様な地域資源をつなげ・・・」「不便さを楽しむ知恵や価値観の創出」についてはバイオマスエネルギーの活用ですでに着手している、また、「地域と教育が連携し、伝統文化を学校教育に・・・」とあるが、これも和知小学校では老人会の施設での体験など地域で密着した活動をされている。こうした点も理解しながら策定していただきたい。

コンサル：今後計画の素案を策定する中で、事務局とも協議し、精査していきます。

野間委員：なぜ要介護2・3が増加し、要介護4・5が減少しているのか。

コンサル：その原因は明らかではないが、高齢化率が高い地域において、要介護4・5の方がお亡くなりになりやすいことが原因の一つになっていると考えられます。

事務局：補足すれば、施設入所者の要介護4・5が減少傾向にあり、介護保険のサービスから医療の

サービスに移行されていることも原因と考えられます。

野間委員：要介護1・2・3が増加している要因についてはどうか。

事務局：介護保険のサービスを利用する必要があることが、多くの方の認定を受ける理由となっていると考えられます。介護度が重度でなく、これまで家族や地域で支えることができていたために認定を受ける必要がなかった方でも、支え手がいなくなり、サービスを受けるために認定を受けるようになったことが、要介護1・2・3の増加に関連していると考えられます。

野間委員：ワークショップの結果は商工団体からするとかなり厳しいご意見が多い。不便さを楽しむというご意見があったが、なんらかの部分でそういう視点があったとしても、商工関係など日常生活に関わる部分の分野においては不便さを許容することは難しいと考える。生活に関わる分野はいくつも考えられるが、その一つでも欠けてしまうと、悪循環で不便さが広がっていくことが想定される。例えば竹野小学校がなくなるとその地域の子どもは数キロ離れた学校に通うことになる。竹野小学校が存続されれば、Iターンの増加にもつながると考えられる。そうした視点からも計画策定を進めていただきたい。

野口委員：夏休み明けの始業式の日自殺や不登校が全国的にも心配されている。和知小学校は本日が始業式だったが、子どもたちが来てくれてよかった。子どもたちが来たいと思えるような魅力ある学校づくりをしたい。和知小学校は平成17年には児童が220名だったが、平成28年には93名となっている。二年後の入学者は一桁かもしれない。小中連携を進めていく必要がある。

和知地区においては、地域文化の継承に向け、人形浄瑠璃や和知太鼓に地域の子ども会が協力しており、学校と地域との結びつきが感じられる。

福祉については、住み良いまちであることが重要であり、サービスも必要だが、『自らも参加する福祉』も良いのではないか。スポーツ・趣味・学習に一人ずつが参加するような地域体制で、だれかを助けることが喜びとなるような、ヒト・モノ・コトがつながるような京丹波町であってほしい。

中西委員：アンケートからみる課題に「情報発信の強化」という文言があるが、“強化”を“工夫”としてはどうか。亀岡市の社協のHPや京丹波町の子育て関連のHPは工夫されていると感じる。また、参加や活動をうながしたり、強要するような考え方を改め、活動のための場を提供しあとはあえてなにもしない「場づくり」という発想に転換してはどうか。

(4) その他

事務局：次回の策定委員会では、地域福祉計画素案を提出・検討、その後パブリックコメントを実施する予定となっております。

(5) 次回の日程調整

事務局：今回は、12月中旬に開催を予定しますので、後日調整を行わせていただきます。

4 閉会（田中副委員長から閉会あいさつ）